

The Expert



平成31年1月10日発行 ● No.111 ●

● 小児医療センター (小児科) 高月 晋一 講師 (平成9年・東邦大学卒)

当院の小児循環器診療の特色

当院の小児循環器外来では、先天性心疾患に限らず、川崎病、不整脈、心筋症、心筋炎、肺高血圧症など様々な疾患を幅広く診療しております。先天性心疾患は出生児100人に対しおよそ1人の割合で認められ、決して頻度の少ないものではありません。これらの先天性心疾患には、胎児期に診断され新生児期に緊急手術を要する重篤な心疾患から、乳児期に心雑音などで発見される心室中隔欠損症や、学童期に心電図異常で発見される心房中隔欠損症まで、数多く存在しております。そこで、当科だけでなく新生児科医や心臓血管外科医と連携し、各診療科の垣根を超えた集学的医療を提供しております。また、手術後も定期的な検診を行い、成人期に達するまで、患者さんの健康を見守り続けていきます。

川崎病は、原因が特定されていない全身の血管炎症候群であり、近年その患者さんの数が増加しております。適切な治療がなされないと、冠動脈に瘤を形成し、若年性の心筋梗塞を来すリスクが高くなります。治療として大量ガンマグロブリン療法が有効とされておりますが、およそ川崎病患者さんの20%程度がこの治療で改善が得られません。そこで、発症時年齢、病日、血液所見などから、このガンマグロブリン療法に抵抗性を示す症例を選別し、これらの重症例に対してステロイド併用を行う治療戦略を行っております。この治療方針により、追加治療を必要とする症例が大幅に減り、冠動脈後遺症は2%未満と全国統計よりも良い治療成績を残しております。

小児の肺高血圧症は、その多くが先天性心疾患に伴うものですが、当科では特発性および遺伝性の肺動脈性肺高血圧症を数多く診療しております。これらは原因となる基礎疾患がなく、適切な治療を行わなかった場合、診断からの平均生存期間が3年と報告されておりました。しかし、近年の内科治療の進歩により、5年生存率は90%を超えるようになってきました。その発症率は100万人に2人程度であり、より経験のある施設での治療が望ましいと考えられます。当科では全国の中でも診療患者数が多く、その治療経験が豊富であるため、日本のみならず海外の施設からも紹介を頂いております。

この他にも学校検診で発見される不整脈や、心筋炎や心筋症の治療も積極的に行っております。小児の心臓病を疑う患者さんがおられましたら、生後1ヶ月の新生児でも産院を退院されている場合には、小児循環器科で診療させていただきます。地域の先生方からのご紹介をお待ちしております。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

高月 晋一 講師：
初診 土曜日午前
特殊外来 金曜日午後 (第1・3・4・5週)

医療機関専用電話 **パートナー**
03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター